

(様式第 1 号)

新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究 課 題	茨城県における伴侶動物の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルス感染状況調査
担 当 者	上野恵、渡邊颯太、小室慶子、大久保朝香、坪山勝平、大澤修一、本谷匠
計画期間	令和 7 年度～令和 9 年度 3 年間
背 景 必 要 性	<p>重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome virus：SFTS）はフェヌイウイルス科に属する SFTS ウイルスを原因とするマダニ媒介性感染症である。マダニからの感染以外に、動物－ヒト感染、ヒト－ヒト感染も確認されている。SFTS 発生地域は近年東日本地域に拡大中だが、茨城県ではこれまで SFTS 患者は確認されていない。イヌ・ネコは SFTS ウイルス感受性が高く、SFTS 発症イヌ・ネコから感染したと推定される患者が多く報告されている。イヌ・ネコにおける SFTS ウイルス鑑別診断は、動物と接触する飼育者や獣医療従事者の感染予防対策に重要な情報となる。なお、本調査については生活衛生課の事業に基づく。</p>
目 的	<p>県内動物病院を受診し、臨床症状等から SFTS を疑うイヌ・ネコについて、動物病院からの依頼により SFTS ウイルス遺伝子検出検査を実施し、飼育者や獣医療従事者の感染予防対策に役立てる。</p>
計画内容	<p>動物病院からの依頼で、イヌ・ネコから採材した血液等の検体について SFTS ウイルス遺伝子検出検査を実施する。検査は、同意書にて飼育者の同意を得た上で獣医師の依頼によって行う。検査結果は判明後すみやかに動物病院に伝達する。</p> <p>検体数は 50 頭/年程度を想定している。研究成果をまとめ、県民への注意喚起を行う。</p> <p>なお、本調査については、茨城県疫学研究合同倫理審査委員会の承認を得ている。（承認番号：R6-9）</p>
研究目標 （達成しようとする成果及びその活用方法）	<p>SFTS 発症イヌ・ネコは多量のウイルスを体液や排泄物中に排出するため、飼育者や獣医療従事者は感染リスクが高い。イヌ・ネコの SFTS ウイルス鑑別診断を行うことで、感染予防対策につなぐことができる。</p>

所要経費 (概算)	経費 (1,500 千円) 内訳：旅 費 需要費 1,500 千円 使用料 原材料費 役 務 費 そ の 他
実施上の 課題及び 対 応	検査した動物が SFTS ウイルス陽性だった場合の対応については、生活衛生課及び疾病対策課が行う。
備 考	

(様式第 10 号)

事前評価結果報告書

令和7年9月//日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博

(押印又は自署)

調査研究課題	茨城県における伴侶動物の重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルス感染状況調査
--------	--

評価項目	評 価	意 見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者発生が東日本に拡大し、県でも重要な感染症であり、伴侶動物感染はヒト感染を起こす可能性が高く、重要課題である。	
②目的の適合性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	飼育者や獣医療従事者の感染の可能性を考えると、県による実態把握は重要である。	
③計画内容等の妥当性	5、4、5、5、 3、5、5 平均評価点 4.6	期間、計画内容、方法共に妥当と考える。	
④目標の達成及び活用可能性	5、4、5、5、 5、5、5 平均評価点 4.9	感染状況調査の目標は達成され则认为。検査した動物がSFTSウイルス陽性だった場合の対応については、生活衛生課及び疾病対策課の実施となり、広域的な周知による有効活用が期待できる。	
⑤総合評価	5、4、5、5、 5、5、5 平均評価点 4.9	伴侶動物における本研究は、ヒトに対する本感染症のリスク評価に必要不可欠と考える。マダニ媒介感染症の包括的、感染疫学的解析にも繋がる。また、伴侶動物に関連した正しい認識と予防情報を提供することにも寄与すると考える。	
⑥計画実施の評価 A：実施相当 B：計画を見直し 実施相当 C：実施不可相当	A：7名 B：0名 C：0名 最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好